

金光学園天文気象部の沿革

年	月日	出来事
昭和22年		開館間もない金光図書館に、アマチュア天文家の藤井永喜雄（後に岡山天文博物館長）が撮影した天体写真3枚が展示されているのを、生徒の大江佳男が見て強く感動を受け、同志を募り、「研修部天文班」（指導者 湯浅勝造）を誕生させる。
昭和23年		・6インチカセグレン式反射望遠鏡購入し、本格的な活動スタートさせる。
	5月9日	日食観測を実施、観測結果を東京天文台等へ報告し、一躍金光学園天文班の名前を知られるようになる。
	12月23日	班員が鳥座に「マックガン彗星」単独発見。正式に認められる。
昭和24年		・藤井永喜雄を講師に迎える。 <p>・東京天文台の支所が金光学園内に出来る。</p> <p>・彗星発見で著名な倉敷天文台の本田実がしばしば来校して指導にあたる。</p>
昭和25年	11月・12月	東京天文台・西大寺高校・金光学園で流星の三点観測を行う。
昭和26年		・天文部として独立する。 <p>・学園長隅田武彦より、5インチの屈折望遠鏡を寄贈され、校庭の南東に天文台が建造される。また当地が天体観測に適していることから東京天文台観測所が隣接される。</p>
昭和27年		射手座新星を写した写真により、日本で最初に確認されたものであることを東京天文台より発表される。
昭和28年	10月以降	随時「天文速報」を発行するようになる。（一部現存 なお現在は発行しておりません）
昭和30年	6月20日	日食観測中に、正確なはずの分表示法に一秒の誤差を発見する。
昭和32年	7月以降	第三回国際地球観測年に、日本学術会議人工衛星委員会からの指名を受け、ソ連・アメリカの人工衛星の観測を開始する。全国11カ所の観測所の内、高校では唯一の参加だった。その精度の高い観測は東京天文台岡山天文物理観測所（後の国立天文台岡山天文物理観測所）を竹林寺山頂（鴨方町）に誘致する要因となった。（なおこの時貸与された望遠鏡三台のうち、二台が現存。）
昭和33年	2月	アメリカ大統領より感謝電報頂く。
	7月	東京天文台と共同人工衛星写真による二点観測開始
	10月	アメリカ科学アカデミー及び米スミソニアン天文台より優秀班員にエンブレムピンを贈与される。
	12月	人工衛星日本代表より表彰を受ける。
昭和34年	1月	金光町教育委員会から表彰される。
	7月	人工衛星観測において、世界優秀班47班以内に選ばれ、スミソニアン天文台・米国科学アカデミーから特別表彰をうける。
	9月	バンガード一号特別観測の功績により、特別感謝状をもらう。
	10月	東京天文台と共同で、ジャコビニ流星群観測を行う。
昭和36年		・第31回岡山県文化奨励賞受賞
	3月	当時のNHK人気番組「私の秘密」（第31回）に出場する。
昭和39年	3月	金星観測の研究発表で、岡山県天文博物館設置委員会より表彰。

このころから、倉敷市水島地方の工業化や、学園周辺の宅地化が進み、観測に適した空がなくなってきた。また、大学受験の激化がそれに拍車をかけ、地味な時間のかかる活動を困難なものにしていった。そんな中でも、月面観測や太陽観測を中心に、写真やスケッチに取り組み、文化祭へ発表し、地道に活動を続けていった。

昭和42年	4月24日	皆既月食の写真撮影に成功する。
昭和44年		・この年、部員現象のため活動が困難となっていた気象部と合併し、「天文気象部」へと名称を変更する。
		・プレアデス星食の観測・火星の地球接近の観測、落下間近のエコー2号の撮影などに成功する。
昭和45年	8月	ペルセウス座流星群観測を行う
	11月	水島工業高校・岡山東商業高校としし座流星群三点同時観測を行う。
昭和48年		観測条件悪化が著しくなってきたため、夏休み恒例の合宿を岡山県川上郡弥高山で行う。「弥高山合宿」は現在でも続いている。
昭和60年	10月26日	文化祭等で大きく取り上げた「ハレー彗星」の撮影に成功する。
	11月	学園創立91年記念式の記念講演に、研修部天文班当時の熱心な班員で東京天文台に就職し、天文部の活動を側面から支援し続けていた香西洋樹氏（現 佐治天文台台帳）が来校、天文学とのかかわりなどの感銘深い話をされた。
	12月17日	校庭で観望会を開催、望遠鏡を総動員しその全てをハレー彗星に向けた。100名以上の参加を得る。
昭和61年	4月10日から14日	部員と顧問合わせて12名が、グアムのジョーンズビーチへ、ハレー彗星観測へ行く。北半球ではハレー彗星の観測条件が悪いため、条件のよい南半球で観測を行うために言った。香西洋樹氏の助言模いただき、観測は大成功であった。
	5月16日から17日	金光町民会館のロビーで「ハレー彗星展」を開催する。
	8月20日から21日	火星食の撮影に成功する。
平成2年	8月27日から28日	レビュー彗星出現。弥高山での合宿を観測に最適なこの日にあわせ、写真撮影等を行った。
平成6年	7月17日から22日	シューメーカー・レービー第9彗星が木星に衝突する珍しい現象が起こる。10.2センチフローライト屈折望遠鏡にビデオカメラを取り付け、木星への衝突の黒い影の録画に成功する。
平成10年	11月17日から18日	しし座流星群高校生同時観測会参加。約100個の流星を確認する。
平成11年	11月17日から18日	しし座流星群の観測のため、弥高山へ観測に行く。しかし、曇り空であった。流星を二個確認したが、しし群ではなかった。（しし座流星群高校生国際観測会に参加）
平成12年	8月	中学棟屋上に新天文台（現 金光学園天文台）が完成する。これに伴い、昭和26年以来使用されてきた観測所は解体された。
	11月17日から18日	前年に引き続き、しし座流星群高校生国際観測会に参加し、しし座流星群観測を校内で行う。途中曇ったりりしたものの、夜半過ぎからは晴れ、多数の流星を確認した。
平成13年	1月23日	全国星空継続観測に参加。すばる（プレアデス星団）の星を観測する。
	11月17日から19日	しし座流星群高校生国際観測会に参加し、しし座流星群観測を弥高山で行う。最良の条件の中、歴史的な大出現を観測。写真・ビデオに収める。
平成14年		高校生天体観測ネットワークに参加する。
	6月11日	日食観測を実施、観測終了後に雨が降るというような悪条件の中、デジタルカメラやビデオに日食の様子を収め、その成果を高校生天体観測ネットワークに報告する。
平成15年	9月9日	顧問 岡崎裕が、月と火星の大接近をデジカメに収める。

初版作成日 2003年11月10日
最終更新日 2003年11月10日
作成者 金光学園天文気象部 國枝

このドキュメントは主に「金光学園100年史」を元に作成されています。

このドキュメントのすべての著作権は金光学園天文気象部に所属します。複製・引用・配布は自由にしていただいてもかまいませんが、出所は明らかにしてください。

このドキュメントの最新版は http://kgac.hp.infoseek.co.jp/で公開されます。